

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和7年3月31日

事業所名 放課後等デイサービスANiMA

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0		2つの指導訓練室のスペースをより広く使えるよう、フロア毎に活動内容を考慮している。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	資格職の配置	専門職の配置については、常時募集を行っているところ。適宜配置してまいりたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	6		階段に手すりの取り付けを検討しているが、建物の仕様上、簡単な作業ではないため、上り下りに不安がある児童については、職員が補助についている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	システムの導入	職員全員で日々の状況や目標及び成果等を確認できる共有のクラウドシステムを導入している。また、月1回のミーティングを実施し、振り返り等を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	システムの導入	職員や保護者向けのクラウドシステムの中で自己評価表を作成できる仕様になっており、業務改善の一助となっている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	SNS等の活用	クラウドシステム内や当社ホームページにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6		外部評価は実施していないが、必要に応じて実施を検討したい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0		資質向上、共有認識を常に確認するために定期的に職員研修を実施している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0		保護者や相談支援専門員、担任との意見交換を積極的に実施しながら、計画策定に取り組んでいる。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	システムの導入	導入しているクラウドシステム内にてアセスメントツールが盛り込まれている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1		感覚統合やSST等、専門性のある活動内容を実施していきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1		エビデンスに基づいたプログラムの形成を心掛け、先進的な成果等に目を向けながら、活動等の更新を行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1		個々の能力等に合わせた課題に取り組んでいる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0		個別活動をメインにしているが、定期的に集団活動も実施している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0		朝礼や終礼の際に、伝達事項等を確認し、さらにはパート職員等にも情報を供覧し、漏れ等がないように配慮している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0		同上
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	システムの導入	クラウドシステムにおいて、記録作成されており、職員全員が確認できる。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	システムの導入	導入しているクラウドシステム内にてモニタリングツールが盛り込まれている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	3		個々の特性や能力、本人の意思に基づいた支援を行っている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1		基本的には児童発達支援管理責任者が参加しているが、状況によっては、その他の職員の参加も積極的に行っていきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0		常に連絡調整を行っており、今後とも継続して取り組んでいきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	1		必要に応じて体制を整えて参りたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	0		必要に応じて連携を図って参りたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	6		現状、そういった事例はないが、就労場所の形成まで視野に入れて活動して参りたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3		今後も継続して取り組んで参りたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6		児童クラブ等だけではなく、社会との接点の創出も視野に入れて、取り組んで参りたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	4		今後とも積極的に関わって参りたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0		職員間や保護者等と常に共通理解や対応について、共有を図っており、今後とも継続して取り組んで参りたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	4		今後、ペアレント・トレーニングの研修も実施していきたいと思っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0		契約締結時に実施しており、今後も継続して取り組んで参りたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1		丁寧に対応させていただいているところであり、今後も継続して取り組んで参りたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5		家族支援も含めた活動を実施している。今後は、ワークショップ等を行いながら、保護者同士の交流の場を広げていきたいと考えている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	1		苦情等の対応窓口を設置しており、常時連絡を取れる体制は整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1	システムの導入	クラウドシステムにおいて、各種お知らせ等の投稿機能が備わっており、積極的に活用している。
	35	個人情報に十分注意している	6	0	システムの導入	ほとんどの処理がシステム上で全て対応可能となっており、紙媒体でのやり取りもなく、十分に注意しているといえる。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	システムの導入	クラウドシステム上でチャットメールが可能のため、24時間体制で連絡調整等を行うことが可能である。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5		地域住民の方との交流がないため、広く開かれた活動を検討したい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3		各種マニュアルを定期的に周知していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1		避難訓練は定期的実施してまいりたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0		定期的実施し、現状把握にも常に務めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	6		身体拘束を行わなければならないような児童は通所していないが、計画には盛り込み済である。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0		食物アレルギーについては、指示を確認し、常に注意している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	5		事例集の作成のため、情報収集等を行っているところ。